



大学図書館問題研究会第 30 回京都支部総会 を開催しました

日 時：2006 年 7 月 27 日（金）19:30—20:30

場 所：季節料理 門（京都市左京区田中門前町 8）

参加者：14 名

【第 1 号議案】2006 年度（2006. 7～2007. 6）活動総括及び

2007 年度（2007. 7～2008. 6）活動方針

【第 2 号議案】2006 年度（2006. 7～2007. 6）決算案及び

2007 年度（2007. 7～2008. 6）予算案、会計監査報告

【第 3 号議案】2007 年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補

支部事務局から第 1～3 号議案について提案と説明があり、質疑・検討の後、原案のとおり了承されました。

2007 年度は別記、「2006 年度大学図書館問題研究会京都支部役員」を中心に、「2007 年度（2007. 7～2008. 6）活動方針」及び「2007 年度（2007. 7～2008. 6）予算」に沿って支部活動を運営していきます。引き続き、支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

【目 次】

大学図書館問題研究会第 29 回京都支部総会を開催しました	…	1
2006 年度活動総括及び 2007 年度活動方針	…	2
2006 年度決算案及び 2007 年度予算案、会計監査報告	…	5
2007 年度大学図書館問題研究会京都支部役員	…	6
本を読まなきゃ大学生じゃない -連続セミナー「知の変容と大学図書館」第 1 回参加報告-	…	7
大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」第 3 回のご案内	…	9
ライブラリアン・セッション発表申込みについて	…	10

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7. so-net. ne. jp （大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www009. upp. so-net. ne. jp/dtkk/index. htm

大学図書館問題研究会第30回京都支部総会議案

2006年度(2006.7～2007.6)活動総括及び
2007年度(2007.7～2008.6)活動方針

1. 2006年度活動総括

(1) 研究交流活動

2006年度は下記のように、2006年9月及び2007年3月に大図研京都ワンディセミナーを開催しました。また、大学図書館を取り巻く環境の変化を少し広い視野で捉えることを目的とした全5回からなる大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」を企画し、2007年6月に第1回セミナーを開催しました。

いずれのセミナーも好評で、アンケートにおいても高評価を得ることができました。また、セミナーを2回以上行うという目標も達成することができました。

A. 大図研京都ワンディセミナー

テーマ：「図書館・図書館員のためのWebの情報発信」

日時：2006年9月23日(土) 13:30～16:40

講師：岡本真氏

場所：京都市国際交流会館

参加費：大図研会員は無料／非会員は500円

B. 大図研京都ワンディセミナー

テーマ：「RFP作成時における図書館業務分析と委託評価の試行について」

日時：2007年3月3日(土) 13:30～16:30

講師：平岡健次氏(江戸川大学 学術情報部)

場所：京都市国際交流会館

参加費：大図研会員は無料／非会員は500円

C. 大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」第1回

テーマ：「大学の変貌」

日時：2007年6月3日(日) 13:30～16:30

講師：竹内洋先生(関西大学)

場所：キャンパスプラザ京都

参加費：大図研会員は800円／非会員は1,000円

(2) 支部報

新しい会員から退職者まで、執筆者の幅を広げること努めました。続京大図書館史こぼれ話(連載)、近畿4支部新春合同例会や全国図書館大会、京都大学図書館機構講演会等の感想、海外の図書館事情、文献管理ソフトについてなど、充実した紙面づくりに励みましたが、定期発行できなかったことが反省点としてあげられます。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

2006年7月に、ホームページのリニューアルを行いました。サイトの目的、利用条件、閲覧確認環境を明示するとともに、トップページに大学図書館問題研究会京都支部の説明を配置するなど、初めてアクセスする人にもわかりやすい構成になりました。また、セミナー開催情報や、支部委員会報告など、会員に必要な情報を掲載するとともに、支部報執筆者の公開希望があれば、京都支部のサイトからも当該原稿を公開することができることにしました。尚、2006年8月22日にアクセスカウンターを設置しましたが、2007年7月3日現在、1,522アクセスを得ています。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.12(2006年8月10日)からno.29(2007年7月2日)を発行しました。今後の課題としては、支部委員会報告にとどまることなく、会員に有益な情報をコンスタントに発信することがあげられます。また、メーリングリストについては、双方向性という特徴を十分に活用することができていないので、何らかの工夫が必要だと思われまます。

(4) 組織活動

会員数は、71名(2006年7月)から69名(2007年6月)と、2名減少しました。会員数変動の内訳は、新規入会者1名、退会者3名です。年々、会員数は減少しているものの、今年度に関しては最小限にとどめられたのではないかと思います。

新規会員の獲得については引き続き、あらゆる機会をとらえ、積極的に勧誘に努めることが必要です。

(5) 財政

財政については、支部委員会として毎月状況を把握するとともに、前年度に引き続いて積極的な会費納入の働きかけを行いました。また、昨年度に引き続き、支部委員3名体制による会費納入率の向上に努めました。

2006年度については重点的に、3年以上会費を滞納している会員(以下、長期滞納者)を減らすことに努めた結果、16名(3年分滞納者5名、4年分滞納者4名、5年分滞納者7名)を5名(4年分滞納者4名、5年分滞納者1名)まで減らすことができました。

また、会費徴収スケジュールを作成し、計画的な督促業務を可能にするるとともに、会費の支払義務の発生時¹⁾を明らかにしました。また、新たに長期滞納者が生まれることのないよう、会費未納に連動する会員資格の一時停止²⁾を運用規則として新たに設けました。

¹⁾ 2006年度第7回支部委員会(2007年1月29日)において、「6月下旬の納入期日までに退会の申し出があれば当年度会費の支払義務は発生しないものとする。しかし6月下旬の納入期日までに退会の申し出がなければ当年度会費の支払義務が発生するものとする。」ことが了承されました。

²⁾ 2006年度第7回支部委員会(2007年1月29日)において、「24ヶ月後の6月下旬までに会費の納入がなければ、会員資格を一時的に停止し、その旨を本人および本部へ通知するとともに、督促を継続する。」ことが了承されました。

2. 2007 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てるため、特別事業として連続セミナーを4回、その他セミナー等を2回以上、開催します。また会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行、ホームページの充実、メールマガジンの発行など、一層の努力をします。

(2) 支部報

支部報の発行体制に無理が生じつつあるため、支部報の刊行頻度を月刊から隔月刊に変更し、定期発行に努めます。読んで自己啓発や会員間交流につながる支部報にとどまることなく、会員へ発表の場を提供する支部報作りに努力します。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすく提供するために、ホームページの更新を行います。

会員の親睦と交流を盛んにするための媒体として、メーリングリストを効果的に活用できるよう努力します。また会員に対して、支部の活動状況を迅速にお知らせする媒体として、メールマガジンを、定期的に発信するように努力します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーなどあらゆる機会をとらえ、入会の勧誘に務めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供など、充実した支部活動を行います。

(5) 財政

個々の会員への個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行い会費納入率の向上に努めます。支部委員会において毎回担当者から報告・提案を受け、会費納入率向上に向けて支部委員全員で取り組みます。

また、セミナー等の企画については、他支部との共催等による経費の節減を模索します。

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2007年度(大図研会計年度2007.07 - 2008.06)に入っておりますので、2007年度の会費の納入をお願い致します。また、2006年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の大綱浩一 まで。

2006 年度決算 (2006.7~2007.6) 及び
2007 年度予算 (2007.7~2008.6)

2006 年度決算案(2006.7~2007.6)

総収入	総支出	差引残高
601,223	309,637	291,586

■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	235,697	235,697	0	
2007 年度会費	0	75,000	-75,000	30 名 (@2,500 円)
2006 年度会費	162,500	135,000	27,500	54 名 (@2,500 円)
2005 年度会費	152,500	40,000	52,500	16 名 (@2,500 円)
2004 年度会費		32,500		13 名 (@2,500 円)
2003 年度会費		17,500		7 名 (@2,500 円)
2002 年度会費		10,000		4 名 (@2,500 円)
支部報購読会費	0	0	0	1 名 (2009 年度分まで前払い/@2,000 円)
セミナー参加費	0	53,500	-53,500	9 月 (7,500 円), 3 月 (3,000 円), 6 月 (25,720 円), 2007 年 7 月~11 月 (前納 17,280 円)
寄附金	0	1,920	-1,920	
口座利子	0	106	-106	
合計	550,697	601,223	-50,526	

■支出の部

会報	120,000	91,320	28,680	印刷(41,780 円)/送料(49,540 円)
研究交流会費	150,000	139,544	10,456	9 月 (76,501 円), 3 月 (63,043 円)
支部活動費	30,000	10,000	20,000	
全国委員会参加補助費	30,000	0	30,000	
事務費	12,000	11,493	507	会費振込手数料(6,120 円)
HP 維持費	22,000	17,850	4,150	
予備費	186,697	0	186,697	
特別事業費	0	39,430	-39,430	特別事業費として連続セミナーを認定: 6 月 (21,530 円), 2007 年 7 月~11 月 (17,900 円)
合計	550,697	309,637	241,060	

2007 年度予算案(2007.7~2008.6)

□収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	291,586	
2007 年度会費	90,000	36 名*2,500 円
		2006 年度: 10 名*2,500 円
		2005 年度: 6 名*2,500 円

		2004年度:5名*2,500円
		2003年度:5名*2,500円
		2002年度:3名*2,500円
支部報購読会費	0	1名(2009年まで前納済)
合計	454,086	

□支出の部

会報	120,000	印刷費(70,000円)/送料(50,000円)
研究交流会費	70,000	
支部委員活動費	30,000	全国委員会参加補助費を編入
事務費	12,000	
HP維持費	16,380	
特別事業費	120,000	特別事業費として連続セミナーを支出
予備費	85,706	
合計	454,086	

2006年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および通帳、現金は適正に記帳し保管されていた。

2007年7月25日

大学図書館問題研究会京都支部 2006年度監査委員

井上敏宏 (印略)

福田(旧姓:大橋)亜紀子 (印略)

2007年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50音順)

赤澤久弥 (京都大学医学図書館)
池田貴儀 (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)
大綱浩一 (京都大学附属図書館)
坂本拓 (京都大学文学研究科図書館)
辰野直子 (滋賀医科大学附属図書館)
呑海沙織 (京都大学医学図書館)
若松克尚 (京都造形芸術大学芸術文化情報センター)
渡邊伸彦 (京都大学文学研究科図書館)

監査委員

井上敏宏 (京都大学附属図書館)
大館和郎 (京都学園大学教務課)

全国委員

呑海沙織 (京都大学医学図書館)

本を読まなきゃ大学生じゃない

—連続セミナー「知の変容と大学図書館」第1回参加報告—

福井 京子

2007年6月3日、大図研京都支部連続セミナー「知の変容と大学図書館」の第1回は関西大学文学部・竹内洋教授の講演「大学の変貌」であった。

以下その内容を紹介したい。

冒頭、大学が大変貌した点がとりあげられた。その理由として、まず、学生文化の変貌があげられる。1960年頃大学生は読書人であり、出版社はその読書人をターゲットにしていた。読書することが輝いていた時代であった。たとえば神田のパチンコ屋の景品に岩波新書があった。また、OLも本を持って歩くだけで、教養があるように見られた。1971年群馬県前橋市でおこった8人の女性を暴行殺害した大久保清事件では、その女性に近づく道具として、難しい本や大学ノートに書かれたロシア文字があった。つまり犯人の「教養主義」風、「インテリ」風が誘惑戦術になりえた時代であった。しかし、70年代から80年以降の大学の 대중化とともに「教養」は衰退し始める。まさに竹内洋著『教養主義の没落』（中公新書1704）である。

次に教養教育と図書館の関係をPISA（OECD生徒の学習到達度調査）の例で見ると、日本の生徒は諸外国に比べて学力は決して劣っていない。しかし読解力に問題があり、読解力にすぐれたフィンランドなどと比べると、高校での図書館の利用率が低い。多感な年齢である高校時代の読書が少ないと思考が貧弱であり、大学生になってからの教養教育に影響がでてくる。少しでも思考力を豊かに出来ればと先生のゼミでは必ず1ヶ月に1冊以上本を読むように指導されているそうである。

先ほど大学が 대중化していったと書いたとおり、1960年代のエリート段階、1980年代のマス段階、そして2005年現在のユニバーサル段階と変化した大学では、進学率の増加により「教養主義」の一翼を担っていた中堅上流大学が下流化していつている。かつてはエリート大学に同質化しようとした圧力が働いた準エリート大学である中堅大学の上位同質化過程が働かなくなってきたのである。「学生文化」は、「東大生文化」、「京大生文化」に変貌して、終焉したのである。

以前は米国の大学は比較的入学するのが簡単で、日本の大学は入学するのが難しいといわれていたが、現時点ではAO入試、推薦入試が4割を超えており、少子化の波で米国の大学より入学しやすくなった。しかしそこにも問題がある。高校の成績が標準化されていない。学力が保障されておらず、成績にバラつきがあり、たとえば英語が出来ない学生が入学してきている。英国では学外試験があるために、高校の先生は役目としてその生徒の成績を伸ばしてあげる必要がある。日本も多様化している現在、必要なことは高校の学力標準化である。

また、学部の名前が4文字以上になり、何について学ぶ学部なのか大学の学知も揺らいできている。当初1文字学部、たとえば文学部、法学部など、これは明治時代の学知であった。ついで大正時代には、2文字学部となり、法学部から枝分かれした経済学部や、文学部からの教育学部であった。現在、明治の学知は変える必要はあろうが、学生集めに偏りすぎた4文字以上学部は大学本来の学知を見失っているように思える。

大学の経営にも問題がある。日本的経営の極端な例として大学経営がある。日本の大学は異常なほど拡大し、まさに大学経営の黄金時代があった。学問は個人ベースであるし、チャレン

ジグな世界である。成果主義に偏りすぎるのもよくないが、年功序列や同一年齢の同一給与は大学経営の問題点である。また、研究のメッカであるはずの教授会自治が強すぎ、自分たちだけの仲間意識、利権主義も経営に悪影響を与えている。

最後に先生の大学改革案はつぎのとおりである。

まず、大学に入学するためには、高校を卒業しているということよりも、学外試験で学力を標準化して、学力を保証することを重視する。次いで、大学院重点化による大学院急増政策の混乱を回避するための提案である。学部を三年制にし、三年制の教養大学（文系・理系・総合のコースわけは必要）から大学院に進学する道と三年制の専門大学で卒業するコースとその専門大学からでも大学院に進学するコースをつくるというものである。戦前の大学が旧制高校や予科だけでなく、専門学校出身者にも開かれていたように大学院には、教養大学、専門大学のどちらからでも進学できる道を開いておくものである。

休憩のあと、質疑応答がなされた。

質問（１）：今、大学改革案が提示され、それぞれの大学は、学生の質向上につとめている。その中で学生の読書の量を増やすのには工夫がいる。授業で教員が感激した本を紹介するというのもいいし、自分は退官講演で紹介されたその本に興味をもった。そんな授業がどこかであったような気がする。先生はどのようにお考えか。

答え：米国の大学や大学院は、授業の中で紹介された本（量が多い）を読まない単位が取れないようになっている。私の大学時代は文学、哲学、歴史学の古典の読書だけでなく、総合雑誌の講読も重要であった。それぞれの本を読んで目からうろこであった。

質問（２）：自分は何冊も学生時代、本を読んだし、今も読んでいるが、就職する会社では、また、社会はそれを評価しないのではないかと思う。

答え：1960年の半ば頃は文系では、法学部や経済学部以外の学部は大手企業に就職できなかった。就職にあたっては、優は勝それ以外は負で、何勝何敗と言って成績も重視されていた。ところが、1970年代前後から企業は深刻な人手不足になり、文学部・教育学部も採用してみた結果、基礎能力があれば、現場の訓練で充分ということが経験的にわかってしまった。理系を除いては就職に卒業学部は関係がない。専門も問われない、成績も問われないとなり、勉強や読書をしなくなった。それどころか「大学型知識人」を敬遠している。大学生が本を読まなくなったのは、日本の企業の責任であるが、企業でもいずれは、役職につくであろうから、学生時代に本を読んでおかないと困るのは、当の本人であると思う。

質問（３）：図書館員として思うが、読書と教養は結びついている。しかし、大学に入学当初、学生たちは、即効性のあるものを望み、インターネットからすぐ知識を得ようとする。大学のカリキュラムは今何を求められているのか。

答え：疑問がなければ本を読みたいと思わない今の時代の方が質問に対する答えとしては難しい。私が子どもの頃、理不尽だと思うことが多かった。例えば、あまりにも貧富の差がありすぎたので、マルクス経済論を読むきっかけになった。今の学生たちは読書すること、考えること自体が、「知のおたく化」だとおもっている。「知のおたく化」とは、コミュニケーションが苦手な自閉的な知識志向学生へのからかいの言葉である。そうではなく、本を読み、違う世界に旅行してみると、感動があるはずである。今の学生たちには、型からはいるのいいのではないか。とにかく読んでみたらどうかと言う勧めを提案したい。

多くの質問に対して丁寧に分かりやすくお答えいただいたが紙面の都合でこれだけにする。

ユーモアを交え、聴衆に質問しながらのご講演の進め方、過去の大学、現在の大学の実状、そして、大学の危機が叫ばれているまさに今、先生の大学改革案などのご提案を興味深く伺うことが出来、きわめて有益であった。

このご講演が今後の図書館セミナーの大きな指針となったことを先生に御礼申し上げるしだいである。

ふくい・けいこ (京都大学大学院教育学研究科・教育学部図書室)

大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」

第3回「目録サービスの進むべき道」(渡邊隆弘先生)のご案内

大学図書館でOPACを利用したことがある人なら誰しも一度は「必要な情報が見つからない」「OPACが使いにくい」「目録の情報が貧弱」という感想を持ったことがあるのではないのでしょうか。

検索という言葉が一般的になりWebを通じて必要な情報の入手が簡単に行えるようになる中で、今後、大学図書館の目録はどのような役割を担って行くべきなのでしょう。

参加者の皆さんと目録サービスの現在おかれている状況について情報を共有し、今後の目録サービスの進むべき道について考えてみたいと思います。

講師：渡邊隆弘先生 (帝塚山学院大学)「目録サービスの進むべき道」

日時：2007年9月16日(日) 13:30-16:30 (受付：13:15-)

会場：キャンパスプラザ京都 第一会議室

アクセス：<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は800円 / 非会員は1000円 (当日、会場でいただきます。)

申込方法：(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)E-mail、(5)懇親会参加の有無をご記入の上、下記いずれかの方法でお申込み下さい。

・京都支部 Web サイトからのお申込みは

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm> から。

・E-mail でのお申込みは 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)宛に。

・FAX でのお申込みは 支部委員 呑海沙織 (京都大学医学図書館、075-753-4330) 宛に。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問い合わせください。

ライブラリアン・セッション発表申込みについて

大学図書館問題研究会京都支部では、2007年4月より、連続セミナー「知の変容と大学図書館」を開催しておりますが、第4回として「ライブラリアン・セッション」の開催を予定しております。「ライブラリアン・セッション」とは、会員の皆様の発表の場です。会員の皆様の発表を通じて、個々がもつ知識やスキル・経験を共有し、更に深め広げることを目的としています。

「先日行った〇〇の取り組みについて発表してみたい」
「〇〇について調べてみたので発表してみたい」
「〇〇についての考え方・意見を発表してみたい」
「自館では〇〇の方法をとっているが、他館ではどうしているのか意見交換してみたい」
「人前で発表する機会がほしい」

・・・こんな方は、ぜひ、この機会をお使い下さい。

「ライブラリアン・セッション」

日時：2007年10月7日（日）13:30-16:30（受付：13:15-）

スケジュール：

13:30-13:40 開会のごあいさつ

13:40-14:10 発表 A

14:10-14:40 発表 B

14:40-15:00 休憩

15:00-15:30 発表 C

15:30-16:00 発表 D

16:00-16:30 発表 E

会場：キャンパスプラザ京都 第二会議室

アクセス：<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

応募資格：大学図書館問題研究会の会員であること

（京都支部に限りません。また、発表時に会員になっていただくことも可能です。）

発表テーマ：大学図書館に関連すること

発表時間：1題あたり発表20分、質疑10分

申込み先：dtkk@rg7.so-net.ne.jp

申込締切：2007年9月18日（火）

申込方法：下記事項を明記の上、電子メールにてお申し込み下さい。

- 1) 氏名
- 2) 所属機関
- 3) 所属支部（新規入会の場合は、所属予定支部）
- 4) 連絡先
- 5) 発表題目
- 6) 発表要旨（600字程度）

お申込みを受付けた旨のメールを3日以内に出させていただきますので、受付のメールが無い場合は、お問合せ下さいますようお願い致します。